

会議名	令和元年度（2019年度） 第1回 産業活力創造会議		
日時	令和元年（2019年）11月28日（木） 午後2時～午後4時10分	場所	宝塚市役所3階 特別会議室
出席者	委員	濱田恵三（会長）、今里有利、矢野浩臣、中村梓、湯浅忠 計5名	
	担当事務局	産業文化部長、産業振興室長、商工勤労課長、商工勤労課係長、商工勤労課係員（株）地域計画建築研究所（2名）	
	関係課関係機関	北部地域調整担当次長、宝塚商工会議所所長代理 計2名	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	0名
内 容（概要）			
<p>1 開会</p> <p>委員6名中5名出席。産業活力創造会議規則（以下会議規則）第5条第2項の規定により過半数以上の規定により、過半数以上の出席により会議は成立。傍聴要領の説明及び本日会議の公開の説明。傍聴者はなし。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）宝塚市産業振興ビジョン（仮称）及び商工業振興計画（仮称）の策定に関する諮問</p> <p>諮問書の写しを配布。 下浦産業振興室長が代読、濱田会長へ諮問書をお渡し。</p> <p>（2）宝塚市産業振興ビジョン（仮称）及び商工業振興計画（仮称）策定スケジュール</p> <p>資料1について説明。</p> <p>事務局： 前年度に2度、産業活力創造会議を開き、本年度の上半期は庁内検討会で議論し、このビジョンに関するたたき台を作った。前回の会議の説明では、庁内検討会である程度固めてから下半期に議論をいただき、先進事例の勉強などを行うとしていた。ただ、スケジュールが少し遅れたこともあり、本日は現在の骨子案、つまり進捗の説明をさせていただき、次回に骨子案の内容に関する先進事例をご紹介し、イメージを持っていただく流れとしたい。今日の審議会で出た意見を反映した状態で、12月初旬～中旬に第3回目の庁内検討会を開催する予定だ。その後、令和2年の1～3月に産業活力創造会議を2回程度開催したい。次回は事例研究、その後検討し、パブリックコメントなどを経て答申いただくという流れだ。第6次総合計画も同時進行で策定を進めており、産業振興ビジョンも整合性を図る。部内の他計画については、ビジョンで産業全般に渡る基本的な方針をある程度定めた後に、農業振興計画や観光集客戦略も共通した理念の下で作成するための準備を進めている。</p> <p>【ビジョン・計画の位置づけ】</p> <p>委員： ビジョン・計画の位置づけはどのようなものか。全体像が知りたい。</p> <p>事務局： 後で説明するが、資料2を先に説明する。市の全体的な体系としては第6次宝塚市総合計画が最上位となる。様々な計画や条例もあるが、計画の最上位はこれである。その下に産業全般に渡る基本方針を定めるビジョンがあり、さらにその下にそれぞれの産業の計画がある。</p>			

委員： 産業以外の様々な個別分野の計画はいくつあり、どのような議論がされているのか。

事務局： 第5次総合計画に基づいて説明すると、大きく6つに分かれており、さらにその中で5つに分かれている。産業であれば観光、商業・サービス業・工業、農業、雇用・勤労者福祉・消費生活、文化国際交流に分かれている。

会長： 産業について言えば、ここで審議した内容は新たに策定する第6次総合計画に汲み取られ、さらにそこで審議し、最終的な総合計画が完成されることになる。

委員： 先進事例の勉強は、他部署とも連携して行うのか。

事務局： 本日は別件があり、庁内の参加者が少ないが、基本的にはこの会議には関係部署の職員に同席させたいと考えている。

委員： 宝塚にはアントレプレナーも多数いるが、創業しようとしている人を対象とした勉強会ではないのか。関係部署が勉強するためのものか。

事務局： 産業政策に取り組む関係部署の勉強会である。

(3) 宝塚市産業振興ビジョン（骨子案）について

資料3（前会議の議事録）について説明。

事務局： 今回の骨子案は、成果指標等は設定せず、農業・商工業・観光など産業全般の基本方針、スローガンを掲げるものだとご理解いただきたい。

資料2について説明。

事務局： 名称については、基本理念を掲げるものとして「宝塚市産業振興ビジョン」とした。

事務局： 次回に先進事例の勉強をし、それから本格的な議論を行いたい。今回は3つのことについてご意見をいただきたい。

- (1) 専門的知見から見る市内産業に共通する課題について
- (2) 宝塚市の創造性にかかるポテンシャルとそれらを活用する創造性発揮の視点について
- (3) 10年後へ向けた戦略方向性について

【ビジョンの目的など全般的なご意見】

委員： 衰退の一途をたどる西谷地区にいるが、一番問題が重くのしかかっている。ポテンシャルはあるのだと思うが、理想と現実のギャップを埋める術を考えなければならない。10年後を見据えた場合、少ない若者を如何に惹きつけ、子どもたちを如何に成長させていけるのが重要である。学術という部分ではまだまだ伸びしろがあるのではないか。

委員： 1つめは、(1) 目的に書かれた文面について。人口減少時代には生産年齢人口の減少の方が問題であり、担い手の確保が先に書かれることで、持続的発展や地域経済の活性化につながる。順番を入れ替えるべきではないか。2つめは、創造的・クリエイティブという言葉の意味が曖昧で、前回の提言書の中でも、初めの見出しと中身がまったく違っていた。創造という言葉が適切だったのか、自分でも反省している。今回の案も中身は練られているが、創造という言葉がふさわしいのか疑問を感じている。イノベーション（革新）はあるものを改良することであり、創造とは真逆ではないか。創造はゼロから作るものであり、破壊して真っ新たな土地を開拓することだ。創造とセットになるのはリストラクチャだ。市の施策として華々しい言葉が必要であることは理解しているが、創

造でいいのかと感じた。

会長： 1つめの文章はどうするか。

事務局： 検討する。

会長： 2つめのクリエイティブについてはどうするか。一般的に使用されているが、整理が必要か。

事務局： 前回、提言いただいた時に、市が十分に消化できず成案化できなかったと考えている。庁内でかなり議論したが、我々がこだわりたいことは、実はイノベーションも創造都市の重要な部分としており、宝塚市には創造都市以外にないと考えている。ただ、創造都市はふんわりした言葉であり、市民や議会にそれをご理解いただくことはかなり難しいと覚悟している。だからこそ、今までの社会情勢や宝塚市のポテンシャルなど、今日的意義を組み立て、宝塚市は創造都市であるとした。かみ砕いたわかりやすい説明は課題である。

委員： とりあえずワンワードとして置いておいて、ブレークダウンした具体的などころをしっかりと作ることも、ひとつの手ではないか。10年後に向けた宝塚市がひとつにまとめ、前に進むためのツールのワンワードとして利用することは問題ない。

会長： 一般的にクリエイティブシティを使用されている金沢市や豊岡市は、元々の産業、豊岡ならカバン産業に、付加価値を付け柔らかくクリエイティブな芸術文化を活かしたまちづくりをしようとしている。金沢も伝統産業や観光都市に、新たな文化施設などの付加価値をプラスして、それを総括してクリエイティブシティと定義している。宝塚市は先端的に芸術都市であり、新たに産業転換をするわけではなく、言葉を整えればクリエイティブシティになる。それをもっとアピールしなければ、10年後を考えた場合、今の産業で乗り切ることが不可能に近いため、目指す方向としてはおかしくない。イノベーションなどの言葉の使い方は考えなければならないが、宝塚市がクリエイティブシティということアピールすることは、日本の中で最も相応しいと考えており、前向きに一般の方にわかるように説明できればいいのではないか。

委員： 商工業では、芸術文化でどのように稼ぐのかを考えなければならないが、「宝塚」にイメージ付けていかなければならない。それから、採石場跡地は市街化調整区域にあるが、原状回復で緑に戻すだけでは生産性がない。土壌改良を行えばオリーブの栽培も可能であり、宝塚オリーブとして売り出せば利益率も高くなる。本格的イタリアン野菜の工場を作れば、障がい者雇用にもつながり、希少価値も高く、やりたい方もいる。宝塚でやるからこそ、おしゃれで価値のあるものの可能性はある。ナチュラルスパの活用方法についても提案がある。宝塚にしかないものを創り、日本中・世界中から人がやってくるものにしていかなければならない。

委員： 事業者にとって立地自治体で一番大事なものは、50年後の市の財政である。上下水道局でも委員をしており、同じ話をした。宝塚市に工場を建てることを検討した場合、50年後に法人市民税が高騰するような市は困る。市自体が収益の安定性、持続可能性を考えてほしい。補助金等の投資に対し、どれだけのリターン（市民税）があるのかという観点で議論してほしい。

委員： このビジョンは誰を対象に書かれたものか。もっと平易な表現を使用したほうが良いのではないか。

事務局： 産官学すべてを対象としており、すべてで推進する。

委員： もっと具体的に優先順位を付けて、大中小の課題に取り組むガイドブックにしてはどうか。

会長： 今回は理念的な柱を固める。その後、各部署の中で優先順位や具体的戦略を固めてい

くため、今日は理念的な大枠のビジョン・柱を中心に議論する。

事務局： 先ほど諮問もさせていただいたが、この場では先に骨子案を固めた上で、その下の商工業振興計画などを議論していただく予定である。

事務局： 創造都市・宝塚の実現には、もう少しわかりやすいものが必要だと感じているが、文化芸術を直接活用した振興や、イノベーションを起こすにはゼロからの発想も必要であり、イノベーションにも創造性は必要である。そのようなマインドをすべての分野に持たせるためのスローガンであり、これから策定する商工業振興計画にもこのマインドを入れなければならない。農業・観光の各課からも、各審議会の委員にこの理念をご説明し、同じ理念に基づいて議論していただく。その中で各計画ができ、市全体が動き出すため、市民にはその動きの中で伝わっていくはずだ。

【農業について】

会長： 本題である3つの分野の現状と課題に戻る。まず農業についてご意見を伺いたい。

委員： 西谷の野菜が欲しいと言われるが、担い手と運搬手段がない。誰一人取り残さないという理念は大切だが、若い人はそれを心配して後継者にならず、西谷を出てしまう。取り残されない安心感が見えてくれば違うと思う。体験農業のような来訪者を集めるだけでなく、地元側と一緒に自然をお金に変える取り組みを行える人を集めるべきである。今は稼ぎ方も宝塚ブランドの価値もわかっていない。落花生のように、これくらい稼げるとわかっていれば、やる気のある人だけを引っ張ることができる。戦略の中に具体案として入れてほしい。それによって新規就農者やIターン者、Uターン者の増加にもつなげたい。誰から見ても可能性があり、実践でき、取り組める人がいて、集客力があるという安心感があれば、村の人の意識も変えられる。

事務局： 担い手不足が一番大きな問題になっていることはわかっている。新規就農者を受け入れる仕組みづくりも行っている。農業振興計画にもご意見は伝える。

委員： 農業の振興なのか、農家の振興なのか、西谷地域の振興なのかわからない。目的がわからなくなることを懸念している。農家戸数の減少は本当に悪いことなのか。何を作ればどれくらい見込めるかで、どれくらいの農業従業者数が必要なのかわかる。西谷の立地のいいところは、市街地に非常に近いことであり、旬のものを作れば1時間以内で持っていける。しかし、耕地面積がそんなに確保できない。先ほどのオリーブについて極端な話をすれば、西谷全域でオリーブだけを作れば、日本国内の最大産地になって日本中に売れるかもしれない。オイルにすれば一年中持つため、産地リレーの問題もない。旬のものを作って、薄利でも機械化して大量生産すれば、そんなに人手もいらぬ。または、花きなどもう少し単価が高く、ハウスがあれば季節の幅を持たせられるもので、例えばダリアであれば宝塚しかないぐらいの生産量があれば稼げる。宝塚といえばこれだという歌劇のようなパワーを持てるかどうか、そのような方向性で現状に課題があるとすれば、庁内でも農協でも地域でも、いろいろあってまともでないことだと感じる。

会長： 大企業が参入しても構わないし、オリーブのような創造農業をやって、西谷の新たなブランドを構築するという考え方もある。

委員： 定住人口を増やすだけなら、農地を全部住宅街にしまえば増える。人口増加が目指すべき目標なのか再検討すべきだ。

会長： 定住人口の増加には移住人口を増やすという方法もある。

委員： 住むからには、そこで幸せな人生を送ることが重要であり、何人住むのかが問題ではない。

会長： 農業以外にも様々な視点があると思う。若者を惹きつけて移住人口を増やすなど、西谷にある農家をどうにかするというのは限界があり、派生していかない。

委員： 補助金漬けにしてそれに頼る体制にしてしまうと持続しない。

委員： 西谷地区は住民を増やすのではなく、観光で人に来てもらうという方向性でよいのではないか。人口は宝塚市内の1%であり、人口を増やすことは現実的ではない。先日遊びに行ったが、一日中楽しめる地域であることに驚いた。市民でも知らない人が多いと思うので、ちょっとしたツアーでも人が来るのではないか。また、空き地や未利用地があるのであれば、商工会議所などと一緒に委員会などを作り、活用方法などを考えて総合計画に入れてもらえれば、変更しやすくなる。それから、毎年、中学生が千人卒業するとすると、200円でできる桜の接ぎ木を学んで植えてもらえば、20万円程度で桜を増やすことができ、観光につながるかもしれない。

会長： 今のご意見はクリエイティブだ。もう一度整理して、前向きな議論ができるのではないか。

【商工業について】

委員： 宝塚市は重工業でなく、軽工業や研究所、またコールセンター等の労働集約型産業が立地しやすい。大都市に近く電車通勤でき、土地も比較的安価なため、可能性は高い。特例措置のような手段が可能であれば、採石場の跡地や逆瀬川駅の上も、駅近で便利だ。市内の駅前の活性化割合が低いため、まち全体が良くなるように主権を制限するなど、特区的な仕組みを作ることが必要だ。何十年もかかるかもしれないが、新陳代謝の仕組みも必要であり、その文言を総合計画に入れてほしい。

会長： 研究都市のイメージはあるのか。

委員： 人口は20万人を超えており、いきなり研究都市というレベルに打ち上げるものでなく、個別の誘致を繰り返すことになる。そのための手段として、今は市街化調整区域でも特例で迎え入れたり、特定の空き家の多い地域を整理してそこにきていただくことなどが必要だ。

関係機関： 今日では理念を決めることが大前提だが、理念についての議論時間が少なかったのは残念だ。理念が決まってからお金の観点になる。次の段階で数値目標が出てくると思うが、それもあまりなかったことは残念だった。

会長： 商工業を理念的に考えるのはなかなか難しい。

委員： 商工会議所も放置していたところもあるが、放置していた結果、マンション街になってしまった。仕方がない反面、もったいなかったとも思う。理念的には、商工業がもし宝塚で発展するなら、「女性のまち宝塚」しかないと考えている。このまちには女性のブランドはすべて揃うぐらいにできれば、商工業で潤う仕組みができる。芸術文化と言われても、商売に結び付けるのが難しい。工業では、US2という100億円の救難飛行艇やごみ収集車などを製造している会社があるが、そういう企業があるということを知ってもらう必要がある。工場の中は男性より女性の方が多い。宝塚は女性が働きやすい立地だと感じる。

会長： 「女性が働きやすいまちというのを打ち上げればおもしろいのでは」という議論がどこかであったと思う。

会長： 理論的な柱の話だが、地域内経済循環という言葉が結構盛り込まれているが、商工業で言うならば、大型店が宝塚に来て、利益を本社に持っていくと、それは地域内経済循

環にならない。宝塚の魅力ある飲食業を上手く取り上げれば、飲食業は観光や農業の側面から言っても成り立つのではないか。スペインのバスクではないが、飲食業には可能性がある。それと観光を組み合わせようか。ビルバオも創造都市であり、ひとつの観光ゾーンだ。そのようになれば、宝塚の地域内経済循環も潜在的な力も高まるのではないか。

委員： 行政が直接、施設ありきの三セクのように経営に携わるのはやめてほしい。責任が不明確で、誰の利益になるのかわからないものは、結局上手くいかない。個別のケースでは、市からの出向でもいいが、代表になってほしい。行政が用意すべきなのは仕組みであり、事業者の新陳代謝が推進されるものであるべきだ。その代わり、道路整備や街灯、交通網や宣伝活動をバックアップし、公平性・中立性からは外れるが、儲け頭を作り、そこに付いていくような仕組みを作ることが、地域内経済循環を考える上で重要だ。大資本を呼んでも本社に利益を持っていかれるため、地元の事業者が潤う仕組みを作してほしい。総花的でも市内全域でも回れない。歩いて回れる範囲より少し広いぐらいで、一日で回りきれずにまた来ようと思ってもらえる広さがあり、そこにあるお店は選ばれた魅力的な事業者である必要がある。

会長： 地域内乗数効果というものが、入ってきて出て行ってしまえば同じであり、如何に中に留めるかが地域内経済循環である。商工業でも地域内乗数効果の概念で考えてはどうか。

【観光について】

委員： 観光農業は西谷がポイントで、宝塚北サービスエリアをゴールにしたルートにしたい。ダリア園は宝塚市の最北部にあり、秋は西谷の稼ぎ時だ。

委員： 観光は今まで、歌劇に頼ってやってきた経緯がある。宝塚ファミリーランドがなくなり、どうやって観光で稼ぐのか。寺社仏閣やゴルフ場に勝手に人が来るが、従来の山本などには来ない。手塚治虫をもう少し活用できないか。FM宝塚で安くサファイアを使わせていただいているが、アサヒ飲料がウィルキンソン炭酸の自販機と同じように、FM宝塚の専用の防災ラジオやカメラを組み込み、非常時には無料で使用できる自販機を作りたいと言ってきており、宝塚のシンボリックな場所、例えば市役所や宝塚北サービスエリアやウィルキンソン自販機の隣などに設置してほしい。継続してやるのであれば、ある観光協会が川でプロジェクトマッピングを行っていたが、宝塚でやるなら、若水と移転後の宝塚ホテルの間の川で、毎日同じ時間に映し出すような仕組みを作れば、初期投資以外の運営費は意外に安くでき、毎日そこに人が集う環境ができるのではないか。宝塚ホテルの移転に合わせて、面白いことができればと思う。観光には予算がなく、年間3千万円程度である。800億円のうちの3千万円では、観光をやる気があるとは感じられない。単発ではなく継続することにお金を使っていきたい。

会長： 今はイベント程度しかできない。

委員： 今は小さくても、将来たくさんの人を呼べるような仕掛けができればと思っている。

会長： あちこちのまちづくりで言われていることは、行政が計画的に行うのではなく、小さなアクションからスタートし、大きな変化を構成していくような要素を入れて、全体のまちづくりを行うことだ。予算があるから投入するというやり方では進まない。市民が中心に取り組む必要があり、少額の募金であれば出すだろう。

委員： 学校を利用すべきだ。20年後の同窓会で植樹した桜の木の下のカプセルを掘り出せば、そこにみんな帰ってくる。それが大事だ。そのような仕掛けを作りたい。

会長： 戦略も重要だが、小さなところからやっていくという戦術の視点も重要だ。行政が大きなお金を付けるという時代でもない。市民が主体的に取り組むことは、総合計画でも重視している視点だ。

委員： 武田尾や中山寺・清荒神など、市内全域で観光を考えていくことが必要だ。特に道がわかりにくく、高齢者でも歩きやすいハイキングコースも必要だ。また、農業の6次産業化などを観光につなげ、経済の活性化を図るべきだ。そして、ARやVRを使った情報発信もできればいいのではないか。ある宿泊施設のチラシは宝塚駅にも置いていない。

会長： 中心部だけの観光ルートでなく、周辺地域や周辺都市との広域連携なども考える必要がある。

委員： タカラジェンヌOGマルシェを宝塚阪急百貨店内で実施しており、売上2位になるほどの人気だったため、可能性はとともある。もっと市内の色々な場所、例えば西谷で実施したい。また、バスツアー会社を立ち上げているタカラジェンヌOGもいるので、タカラジェンヌOGのガイドで来ていただき、宝塚らしさを感じていただくツアーをやりたい。

事務局： 今後について、来年1～3月に2回の開催を予定している。1回目は先進事例の勉強と議論の場を設定する。2回目は商工会議所の計画も入ってくる。

閉会